

国際雲物理学会議決算書

収入の部		支出の部					備考
科目	金額	科目	金額				
			東京の分	札幌の分	名古屋の分	計	
I U G G	181,000	旅 費	934,660	0	8,400	943,060	
W M O	179,545	印刷製本費	734,775	10,750	0	745,525	
気象学会	100,000	消耗品費	408,769	154,590	0	563,359	
会費237名	474,000	通信運搬費	209,326	21,365	0	230,691	
参加費99名	19,800	役 務 費	913,229	121,275	0	1,034,504	
寄 付 金	4,203,000	借料及損料	392,391	32,620	0	425,011	
売 上 金	33,851	会 議 費	1,060,166	84,400	89,579	1,234,145	
		募 金 経 費	14,880	0	0	14,880	
		雑 費	0	0	21	21	
計	5,191,196		4,668,196	425,000	98,000	5,191,196	

昭和42年度事業計画

(別紙4)

昭和42年度の事業については、理事はもとより一般会員から、学会発展のため数々の名案が提出されましたが、予算案に見られるとおりの財政状態で、残念ながら新機軸を打出すことはできませんでした。従って経費を伴うものは、ほとんど例年とおりのことを行うという計画になりましたが、念のための主なものを摘記しました。ご審議をお願いします。

1. 会合など(ほぼ例年とおりの)

- (1) 全国理事会 少くとも年4回。
- (2) 常任理事会 定例11回(8月を除く)。
- (3) 大 会 春秋2回。
- (4) 総 会 定例春1回, 秋に臨時総会。(秋は定かん改正を主な議題とする)
- (5) 講 演 会 春, 夏, 各1回。
- (6) 例 会

2. 印刷物(ほぼ例年とおりの)

- (1) 気象集誌 45/2~46/1 計6冊
- (2) 天 気 14/3~15/2 計12冊
天気については、その内容について、
大方の意見を聞いて改善したい。

(3) 気象研究ノート 4~5冊(できるだけ多く出したい)

3. 国際会議など(例年とおりでないもの)

(1) 新しい気象教室

7月下旬1週間、気象庁講堂を借りて、気象学会主催、都教育委員会、地学教育研究会の後援で実施する予定、教員、学生、一般を対象とし、聴講料をとり、独立採算で行う。講師は、第1回は講演企画の理事または委員が担当する。その実績によって、将来は、各支部でも行うようにしたい。聴講者には、学会より証書を出す。

(2) 第4回国際大気電気会議

昭和43年5月行われる標記会議の共催者の1となる。

4. その他(事業と云えないかも知れないが、運営方針などを参考までに)

- (1) 学会運営の改善につきさらに検討し、必要により定かん改正を提案する。
- (2) 気象学の長期計画の推進。
- (3) GARR 計画の進捗。
- (4) 財政基礎強化に努力。
- (5) 会員の増加に努力。